

があり、気象学会として受領することに決めた。また、その活用方法について常任理事会で案を作り理事会(沖縄)に提議することにした。また故堀内会員の縁故者に気象学会として礼状を出すことにした。

9. 気象講演会の後援について

気象弘主催の講演会「21世紀の気候はどうなる」について

気象庁から後援依頼があり、承認された。

日時：8月30日 14:00~17:00

会場：竹橋会館 11階 孔雀の間

10. 学会の持ち方について

地震学会会長からの地球物理学に関連する諸学会の春季大会を同時に同じ場所で開催する件に

ついでに文書、および地球電磁気、地球惑星圏学会長からの、地球物理学学会連合について話し合う機会をもつ件についての文書に対して、第8回常任理事会の審議を参考にして理事長起案の回答の説明があった。

審議の結果、地球物理学分野の学会が一層緊密に協力するため話し合うことは賛成だが、春季大会を合同して開催することには種々の観点から問題が多くなった。これを受けて理事長が回答することになった。

11. 韓国気象学会会長を秋季大会に招へいする際、旅費・滞在費は気象学会が負担することになった。

編集後記：「天気」編集委員になると投稿論文の審査担当が回ってくる。複数の方にレフリーをお願いしてコメントをいただく。レフリー・コメントをまとめて著者に送り、改稿していただく。必要なら再度レフリーに査読をお願いする。

著者に送るレフリー・コメントをまとめるに当たっては、著者の意図が論文中でより明確に表現されるように、また、できるなら著者の目指す方向がさらに発展するようにと心掛けている。

しかし、担当する投稿論文は、自分の専門外のことも

ある。そのようなときは、レフリー・コメントが単に厳しいだけのものなのか、専門家同士として著者には指導的意図が読み取れるものなのか、判断し兼ねることもある。レフリー・コメントに対して著者からの反論があるときも、同様に判断し兼ねることがある。

著者とレフリーの立場や意見のくい違いを調整し、納得のいく合意を形成していくお手伝いをするのが編集委員の役目だと考えているが、コメントの意図がよくわからないときは心苦しい。

(M. H.)